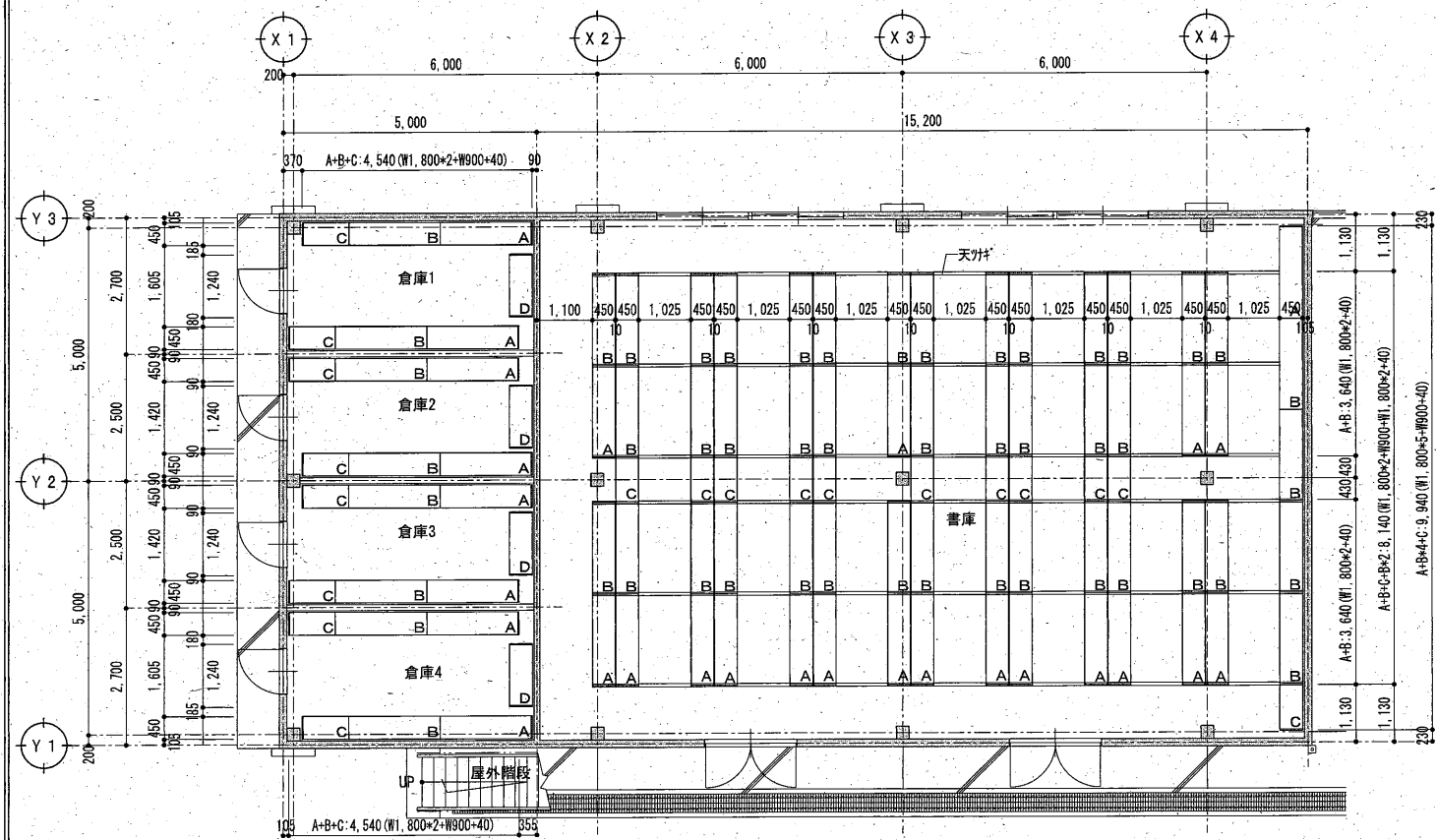
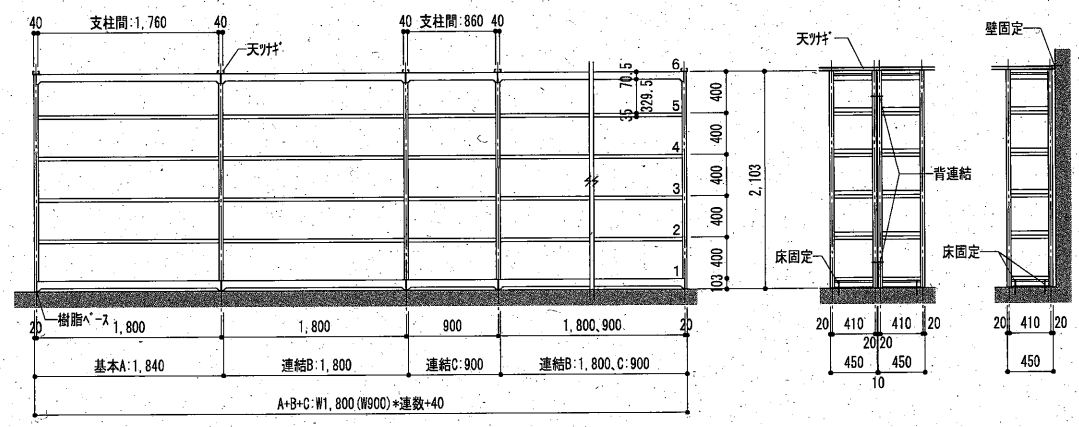


2階中軽量棚配置図 (A2)S=1:100 (A3)S=1:141



1階中軽量棚配置図 (A2)S=1:100 (A3)S=1:141



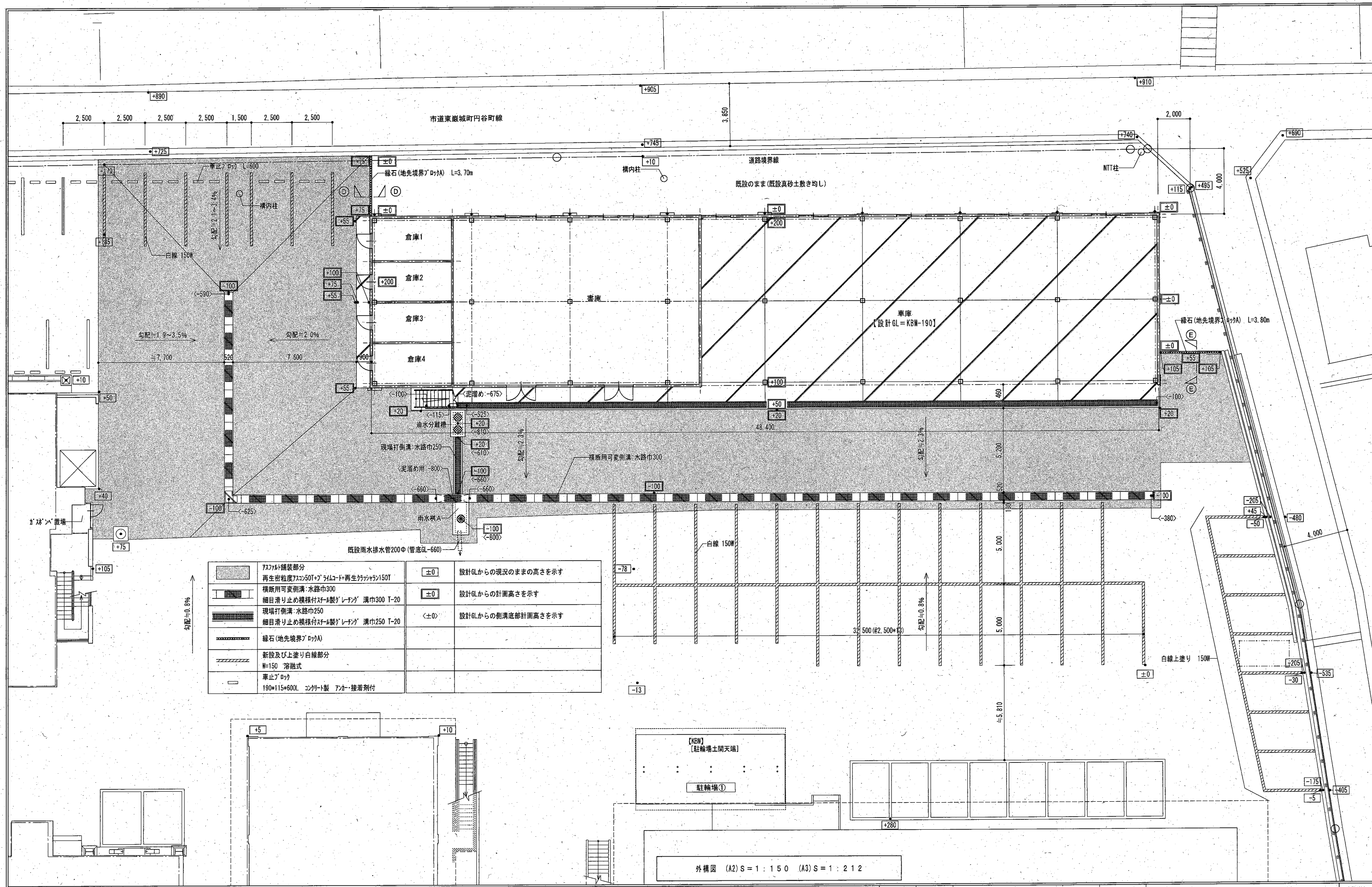
中軽量棚標準姿図 (A2)S=1:50 (A3)S=1:71

※中軽量S7-L棚 仕様 (参考品番:金剛(株) 中軽量棚B.L.L型)

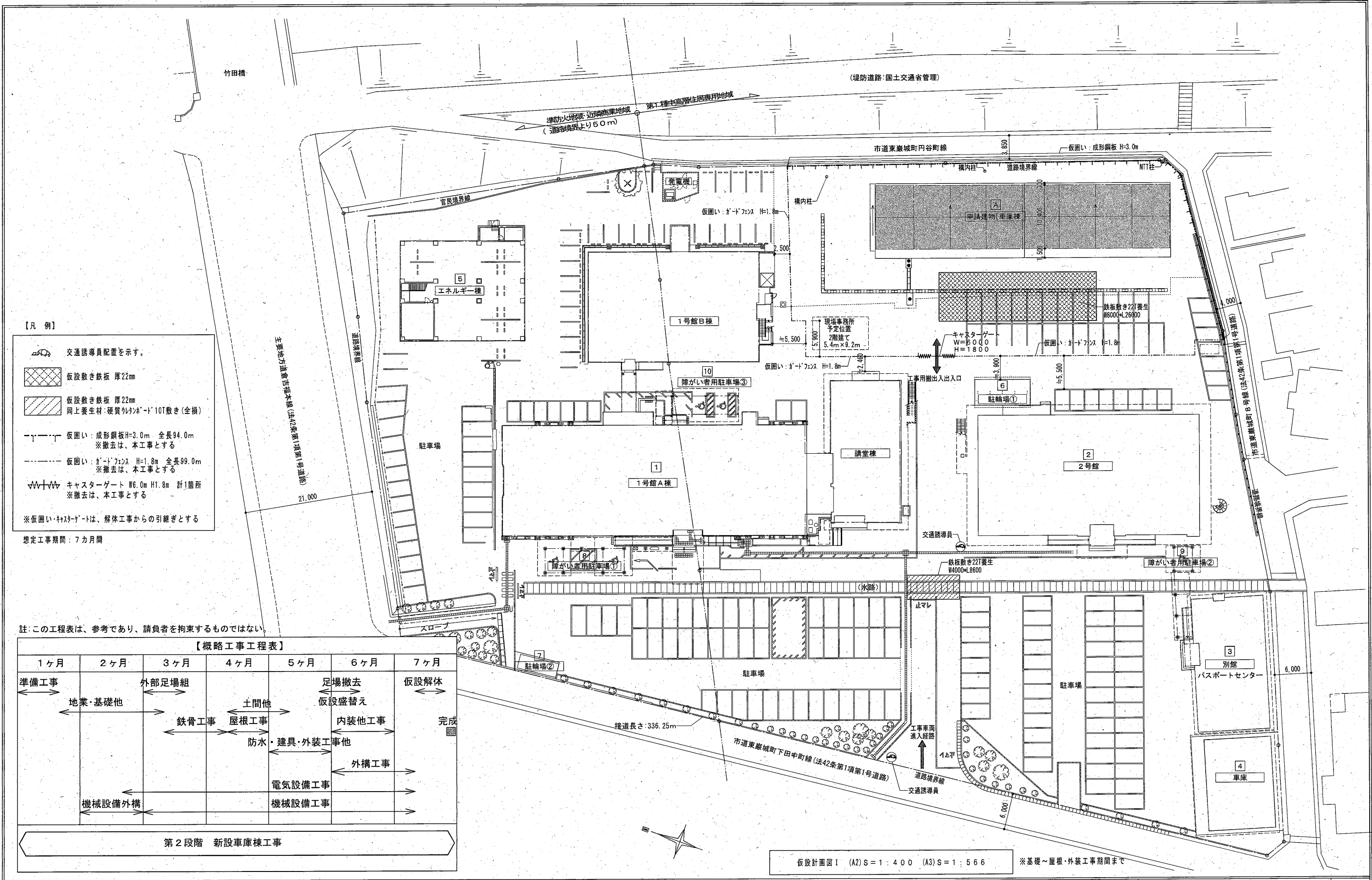
固定	: 床固定・壁固定・天ナジ・背連結
棚板	: 可動式で互換性のあるもの
支柱	: 複柱式とし、単式棚は2本柱
最大積載荷重	: 1段あたり 150kg/段
塗装色	: 規格式色 (F☆☆☆☆相当)
製作	: ISO9001 及び ISO14001 認証取得工場
	: JIS1039 書架・物品棚 認証製品 (JIS種類: 5種-VI)

A	: 単式1連 有効5段 基本 D=450 W=1,800 H=2,013
B	: 単式1連 有効5段 連結 D=450 W=1,800 H=2,013
C	: 単式1連 有効5段 連結 D=450 W=900 H=2,013
D	: 単式1連 有効5段 基本 D=450 W=1,200 H=2,013

[※表示寸法は参考とする]



	アスファルト舗装部分	±0	設計GLからの現況のままの高さを示す
	再生密粒度アスコン50T+ブラムロード+再生ケラックラン150T	±0	設計GLからの計画高さを示す
	横断用可変側溝・水路巾300 細目滑り止め機様付フェル製ゲレータ付 溝巾300 T-20	<±0	設計GLからの側溝底部計画高さを示す
	現場打側溝・水路巾250 細目滑り止め機様付フェル製ゲレータ付 溝巾250 T-20		
	緑石(地先境界ブツカ)		
	新設及び上塗り白線部分 W=150 溶融式		
	車止ブツカ 190×115×600L コンクリート製 アンカー接着剤付		



- 【凡例】
- 交通誘導員配置を示す。
 - 仮設敷き鉄板 厚22mm
 - 仮設敷き鉄板 厚22mm
同上養生材:硬質ウレタンボード10T敷き(全構)
 - 仮囲い:成形鋼板H=3.0m 全長94.0m
※撤去は、本工事とする
 - 仮囲い:ガードファン H=1.8m 全長99.0m
※撤去は、本工事とする
 - キャスターゲート W=6.0m H=1.8m 計1箇所
※撤去は、本工事とする
- ※仮囲い・キャスターゲートは、解体工事からの引継ぎとする
- 想定工事期間: 7カ月間

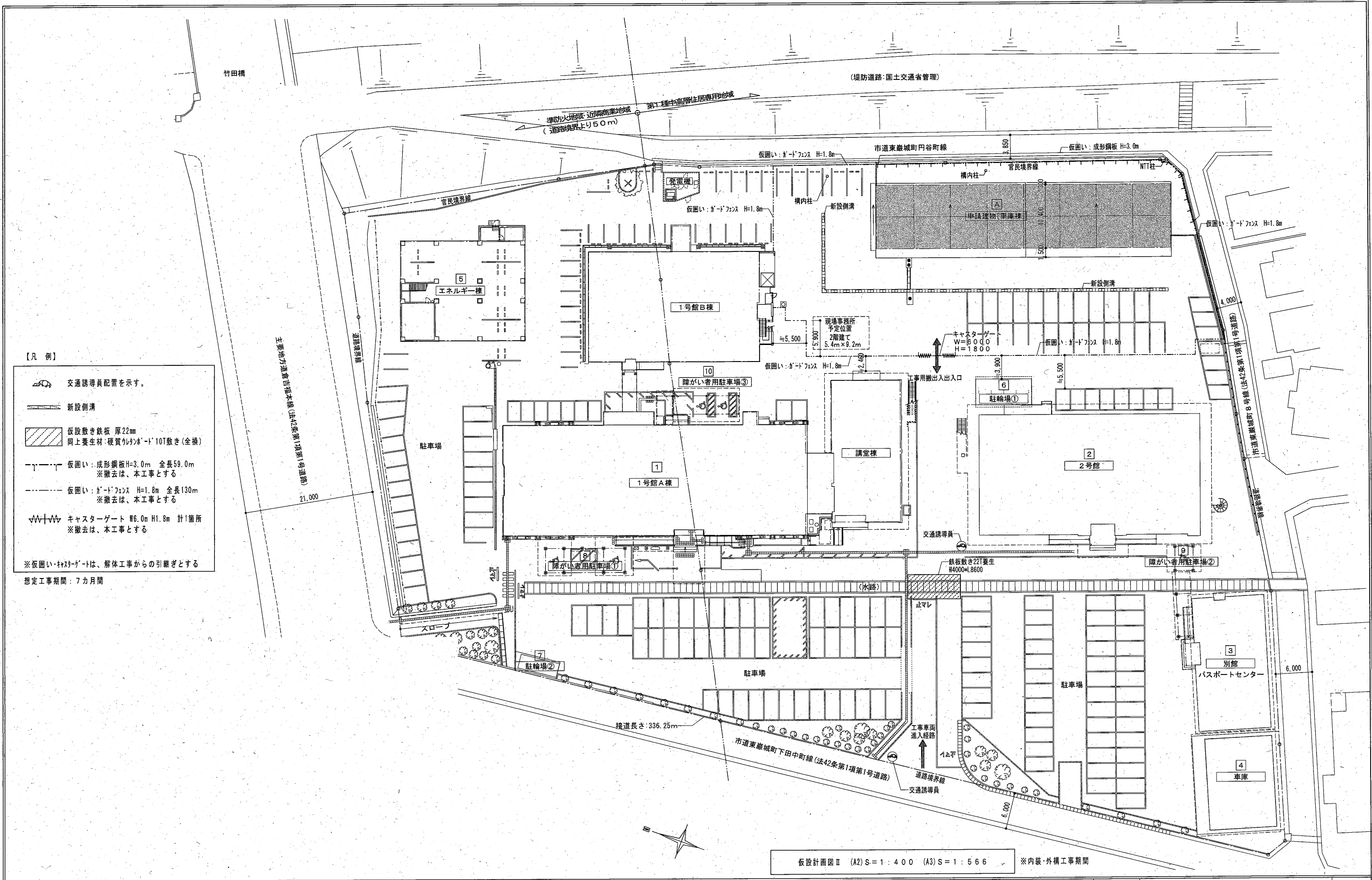
註:この工程表は、参考であり、請負者を拘束するものではない。

【概略工事工程表】

1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月
準備工事	外部足場組	外部足場組	外部足場組	外部足場組	外部足場組	外部足場組
地業・基礎他	鉄骨工事	土間他	屋根工事	足場撤去	仮設盛替え	仮設解体
		防水・建具・外装工事他	内装他工事			
			外構工事			
			電気設備工事			
			機械設備工事			
			機械設備外構			
第2段階 新設車庫棟工事						

仮設計画図 I (A2) S=1:400 (A3) S=1:566

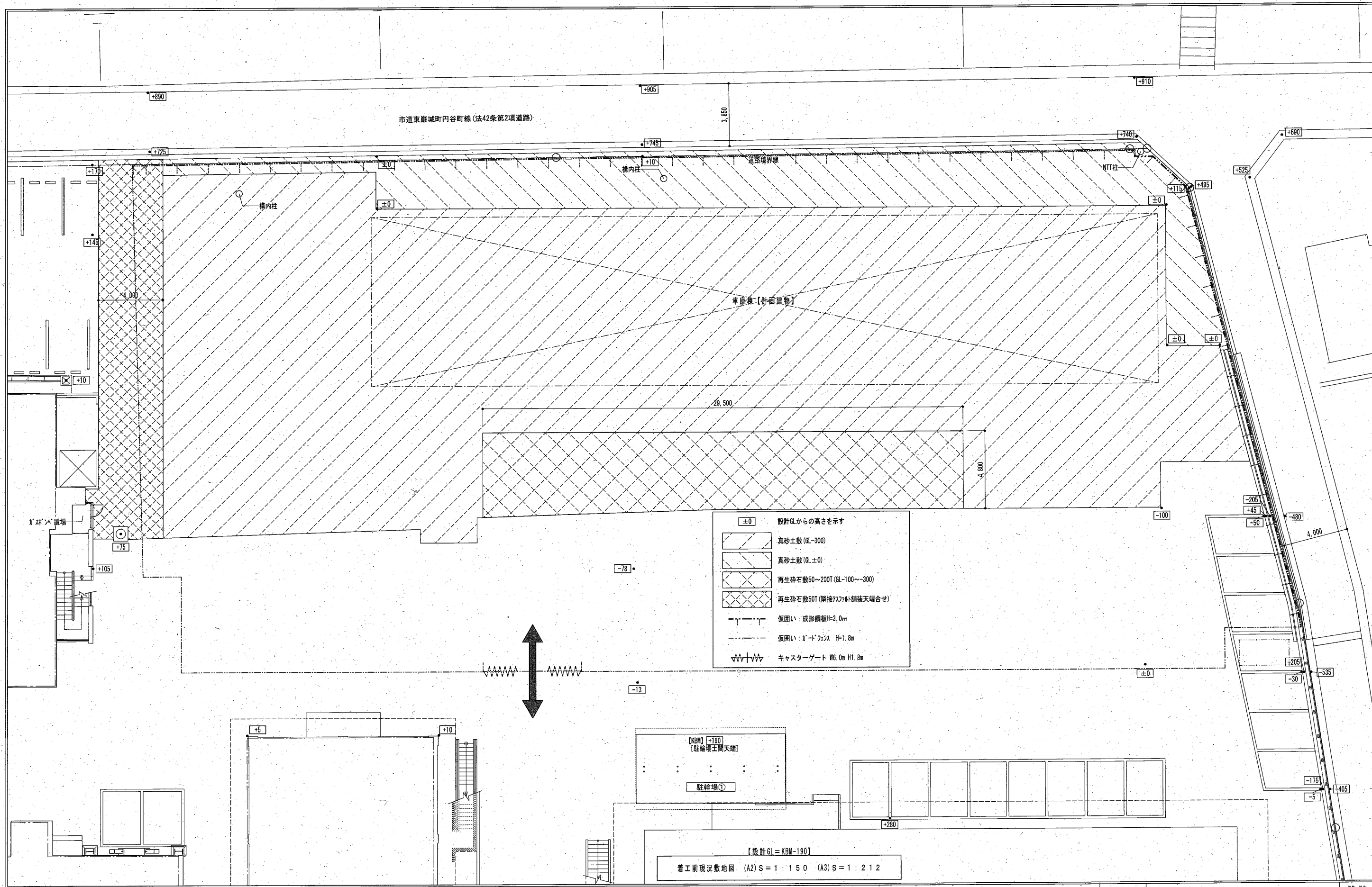
※基礎～屋根・外装工事期間まで



- 【凡例】
- 交通誘導員配置を示す。
 - 新設側溝
 - 仮設敷き鉄板 厚22mm
同上養生材: 覆質ウレタンボード10T敷き(全棟)
 - 仮囲い: 成形鋼板H=3.0m 全長59.0m
※撤去は、本工事とする
 - 仮囲い: ガードフェンス H=1.8m 全長130m
※撤去は、本工事とする
 - キャスターゲート W6.0m H1.8m 計1箇所
※撤去は、本工事とする
- ※仮囲い・キャスターゲートは、解体工事からの引継ぎとする
想定工事期間: 7カ月間

仮設計画図Ⅱ (A2) S=1:400 (A3) S=1:566 ※内装・外構工事期間

TITLE	中部総合事務所車庫棟改築工事	DR. NO.	A-25
DR. NAME	仮設計画図Ⅱ		



- ±0 設計GLからの高さを示す
- 真砂土敷 (GL-300)
 - 真砂土敷 (GL±0)
 - 再生砕石敷50~200T (GL-100~-300)
 - 再生砕石敷50T (隣接7x7x1舗装天端合せ)
 - 仮囲い：成形鋼板H=3.0m
 - 仮囲い：ガードフェンス H=1.8m
 - キャスターゲート W6.0m H1.8m

TITLE	中部総合事務所車庫棟改築工事	DR. NO.
DR. NAME	着工前現況敷地図	A-26

構造特記仕様書

5.1 一般事項
選択項目は○印を適用し、○印が無い場合は*印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

- 1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。
1-2 設計図書は優先順位は下記による。
1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図
4) 仕様書
5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6(最新版とする)
1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。
1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。
1-6 設計位置、径、及び箇所数は(意匠図・構造図・設備図)による。
1-7 その他

5.2 構造計算ルート

Table with columns: 方向, ルート1, ルート2, ルート3. Includes text for reinforcement details and calculation methods.

5.3 仮設工事、土工

- 3-1 山留め、根切り
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
盛土処分: 埋戻し土中の良土、盛土中の良土、場内均し

5.4 地業工事

Table for foundation and slab details. Columns: 場所, 捨てコンクリート厚さ, 厚さ. Rows: 基礎, 土間スラブ, 土間コンクリート.

- 4-2 設計地耐力: 長期 200 kN/m², 短期 300 kN/m², 終局 kN/m²
4-3 地盤改良: 無筋コンクリート地業, セメント系固化材投拌, 圧密排水工法
4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

- 1) 杭種: PHC杭, ST杭, SC杭, PRC杭, 節杭
2) 工法: 打撃工法, 埋込み工法

Table for pile design strength. Columns: 杭径(底部)mm, 長期kN, 短期kN, 終局kN, 本数, 備考.

- 4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強: かが筋, スタッド溶接, 杭外周溶接
4-5 場所打設筋コンクリート杭、場所打設鋼管コンクリート杭
1) 工法: アースドリル工法, リバース工法, BH工法

Table for pile design strength. Columns: 杭径(底部)mm, 管厚mm, 長期kN, 短期kN, 終局kN, 本数, 備考.

- 3) 杭先端長さ: 杭リストによる, 杭伏図による
4) 孔壁測定 (2方向): 行う
5) 使用材料: コンクリート, 鉄筋, 鋼管(リブ付)

5.5 鉄筋工事

Table for reinforcement materials. Columns: 種類, 径, 継手. Rows: SD295A, SD345, SD390, SD490, 溶接金網, 高強度せん断補強筋.

- 5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本建築協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
5-4 梁貫通補強
5-5 その他

5.6 コンクリート工事

- 6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1) セメント: 普通ポルトランドセメント, 高炉セメント
2) 粗骨材: 砂利, 砕石, 高炉スラグ骨材
3) 設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)

- 4) 土間コンクリート
5) 捨てコンクリート
6) 防水押さえコンクリート
7) かさ上げコンクリート

Table for concrete properties. Columns: 箇所, 基礎, 基礎梁, 一般, 備考. Rows: スラブ, 水セメント比, 単位水量, 単位セメント量.

- 6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
6-5 調査(補正値は工事費に含む)
6-6 せき板及び支柱の在留期間(普通ポルトランドセメントの場合)

5.7 鉄骨工事

Table for steel materials. Columns: 規格名称, 鋼材名, 柱, 通し内, 大梁, プレス, 小梁. Rows: 一般構造用圧延鋼材, 建築構造用圧延鋼材, 一般構造用角形鋼管, 冷間成形角形鋼管, 熱間成形角形鋼管, 一般構造用炭素鋼管, 一般構造用軽量形鋼管, 建築構造用圧延棒鋼.

Table for high strength bolts. Columns: 高力ボルトの種類, 使用箇所. Rows: トルシア形高力ボルト, JIS形高力ボルト, 溶融亜鉛メッキ高力ボルト, 超高力ボルト.

- 7-3 普通ボルト、アンカーボルト
7-4 頭付きスタッド

Table for high strength bolts. Columns: 径, 長さ(mm), 使用箇所. Rows: 16φ, 19φ, 22φ.

- 7-5 溶接材料
7-6 スクラップ形状
7-7 継手

Table for joints. Columns: 柱, 梁. Rows: フランジ, ウェブ.

- 7-8 溶接方法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を行う。
3) AW検定(工場・現場・代替材)の有資格者で、工事監理者の承認を受けた者は技量検定付加試験を免除する。

- 7-9 テッキプレート(単位: mm)
1) 床用: 高さ, 板厚
2) 合成スラブ用: 高さ, 板厚
3) 型枠用: 高さ, 板厚
4) 防錆処理: プライマー, 亜鉛メッキ, Z12, Z27

Table for coatings. Columns: 適用, 塗料, 種別, 標準厚. Rows: 屋外, 室内.

- 3) 溶融亜鉛メッキ
4) 常温亜鉛メッキ
5) 高耐食メッキ鋼板(t3.2mm以下)
7-11 溶接部の検査(受入検査)
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築士、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2018により、合格判定は7.2.1条を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の取り方方法及び取り率は以下による。

Table for steel manufacturing site. Columns: S, H, R, J.

5.8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

- 8-1 コンクリートブロック
1) 種類: A種, B種, C種
2) 厚さmm: 100, 120, 150, 180
8-2 ALCパネル
1) 使用箇所: 床, 屋根, 外壁, 内壁
2) 厚さmm: 75(80), 100, 120(125), 150, 175
3) 外壁取り付け構法

Table for concrete blocks. Columns: 方向, 構法, 使用箇所, 備考.

- 8-3 押出成形セメント板
外壁取り付け構法及び厚さmm
Table with columns: 方向, 構法, 使用箇所, 備考.
8-4 PCa板
1) 床及び屋根: PCa板単独厚さmm, 合成板
Table with columns: PCa板厚さmm, 現場打厚さmm, 合計厚さmm, 備考.

Table for PCa board thickness. Columns: PCa板厚さmm, 現場打厚さmm, 合計厚さmm, 備考.

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

§1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に記載なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	×	◇	●	○	◎	⊕	⊙	⊚	⊛		
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D36	D41
最外径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合
 ○ フックのある場合
 ○ 本数に差がある場合
 ○ 機械式継手表示
 ○ ガス圧接、溶接継手表示

2-2 鉄筋の折り曲げ

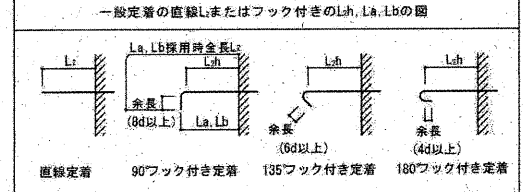
柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(φ)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 帯筋	SD295	D16以下	3d以上
			SD345	D19~D41	4d以上
135°		あばら筋 スラブ筋	SD390	D41以下	5d以上
90°		スラブ筋 帯筋	SD490	D25以下	5d以上
				D29~D41	6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2018)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ	
		上端筋 L ₁	下端筋 L ₂	一般	小梁・床スラブ
SD295 SD345 (はSD345を示す)	18	45d(50d)	40d	15d	15d
	21	40d(45d)	35d	20d	(20d)
	24~27	35d(40d)	30d(35d)	25d	25d
	30~36	25d(30d)	20d(25d)	15d	15d
	39~45	35d	30d	20d	20d
	48~60	20d	15d	15d	15d
SD390 (SD490) (は適用外)	21	50d(-)	40d(-)	20d	(-)
	24~27	45d(55d)	40d(45d)	20d	(-)
	30~36	40d(45d)	30d(35d)	15d	(-)
	39~45	30d(35d)	25d(30d)	15d	(-)

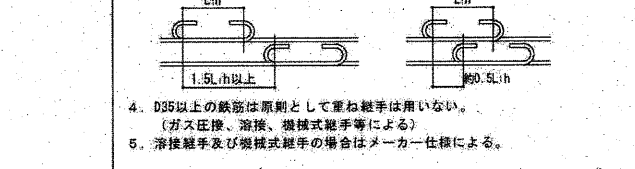


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの場合は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
 2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

2-4 継手一般

3. 構造特記仕様書2-2で令第73条を選択した場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは左下表Lかつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。

4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2018)、RC規準2018とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは設計図によるが、参考値として左下表JASS5(2018)にL₁を示す。

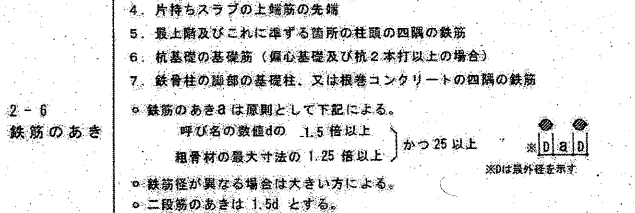


2-5 鉄筋のフック

4. D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。(ガス圧接、溶接、機械式継手等による)

5. 溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

6. 下記の1.~7.に示す鉄筋の末端にはフックをつける。

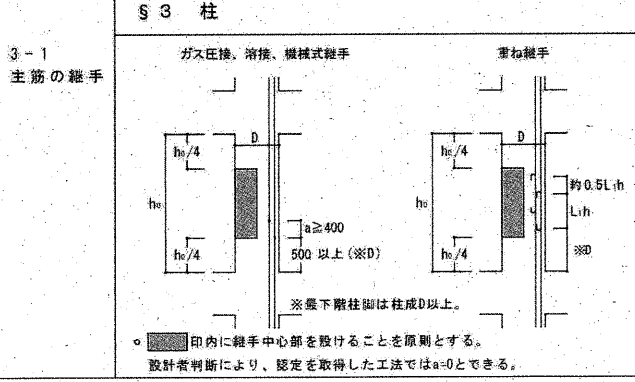


2-6 鉄筋のあき

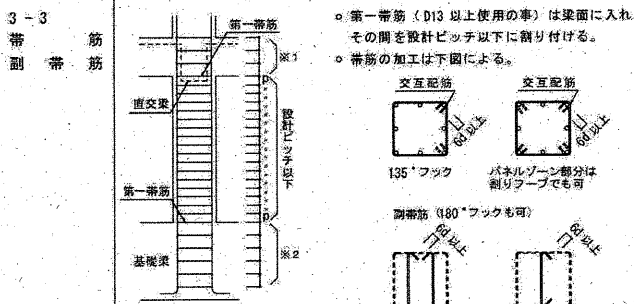
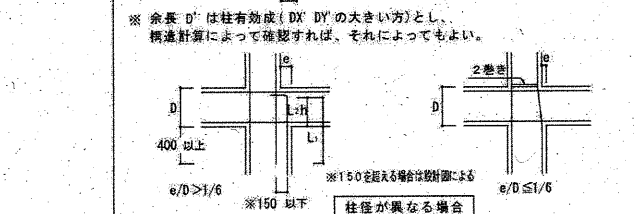
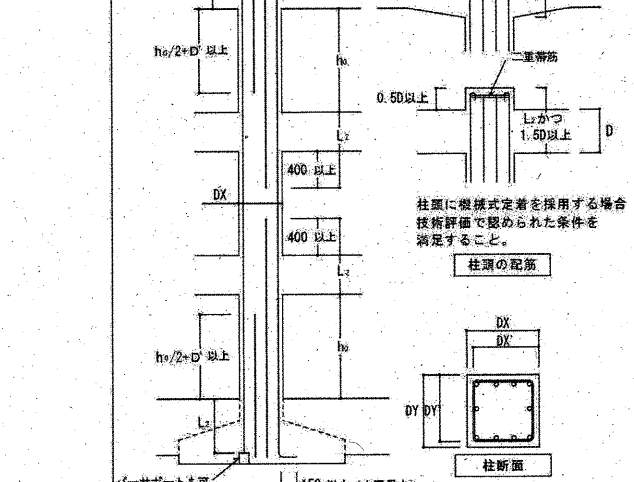
2-7 かぶり厚さ

部位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内 30(20) 屋外 30(20) 40(30)
	柱 耐力壁	屋内 40(30) 屋外 40(30) 50(40)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ 非耐力壁の立上り	50(40)
	基礎・梁	70(60)

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
 2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
 3. ※1 品質・施工法に応じ、工事管理者の承認で10%減の値とすることができる。
 4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
 5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。



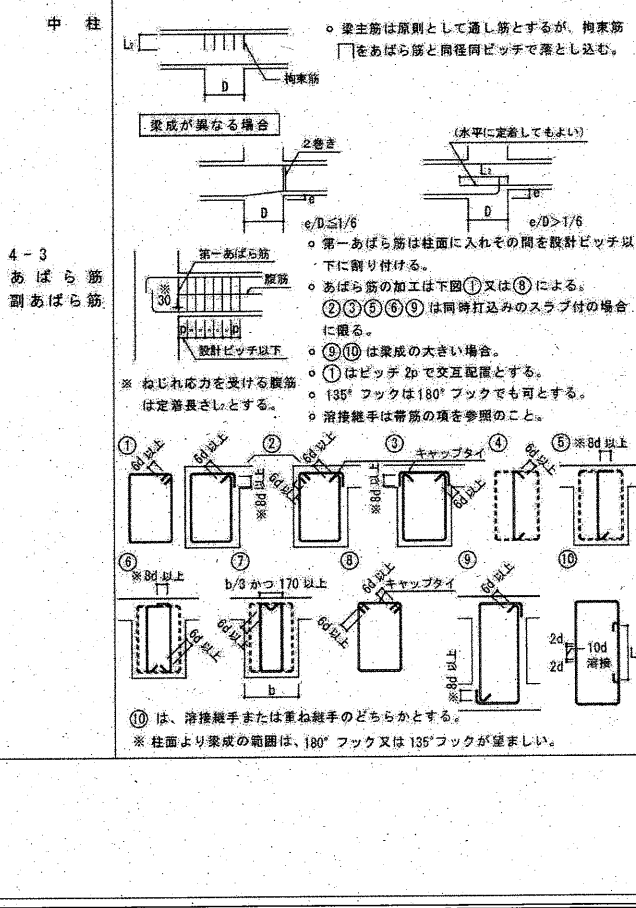
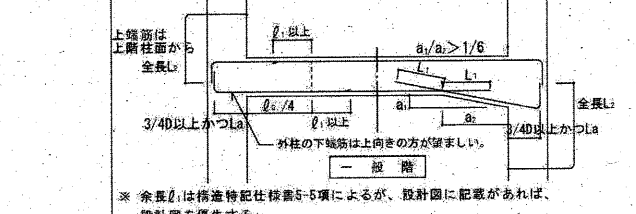
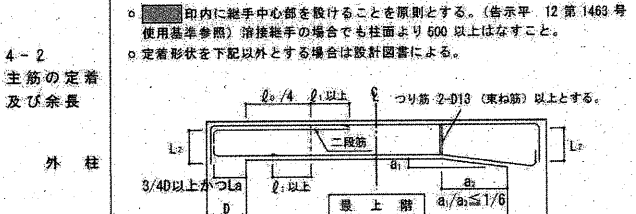
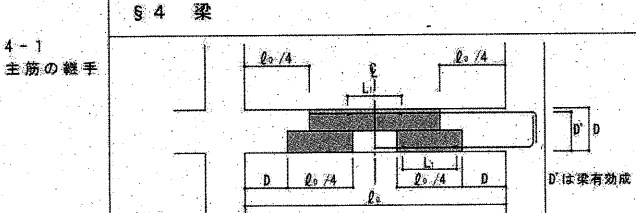
3-2 主筋の定着



3-5 柱のコンファインド補強

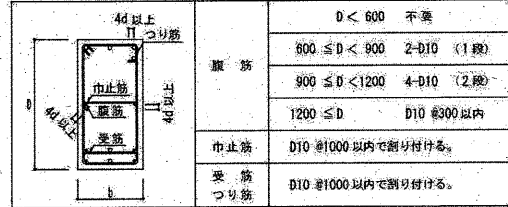
補強する柱は設計図による。(柱間、柱脚柱成の範囲を補強する。)

a スパイラル帯筋φ60~75 (有効間隔50程度)
 b 溶接閉鎖型帯筋φ60~75 (有効間隔50程度)

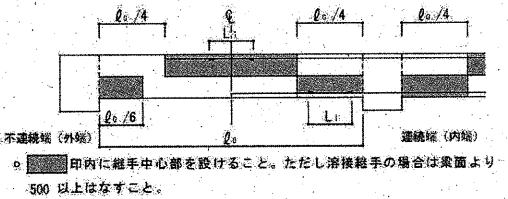


鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

4-4 補助筋

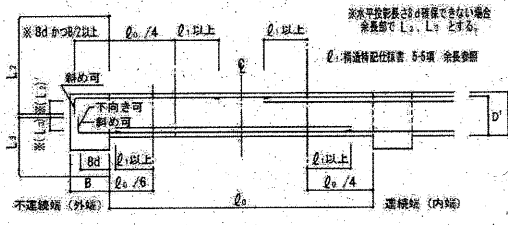


4-5 小梁及び片持梁



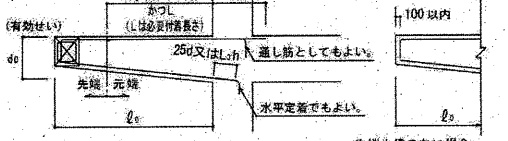
印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継手の場合は梁面より500以上はなすこと。

定着



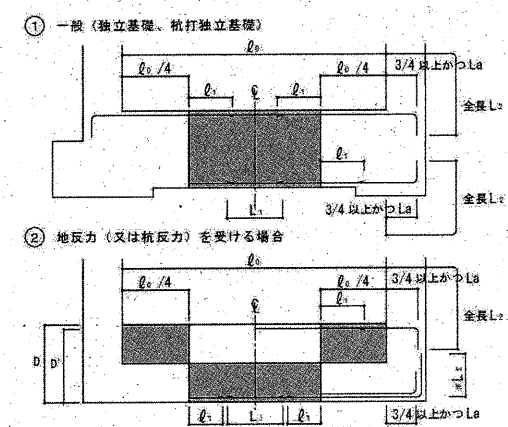
下端筋は水平定着でも可。上筋筋には継手を設けてはならない。

b) 片持梁 定着



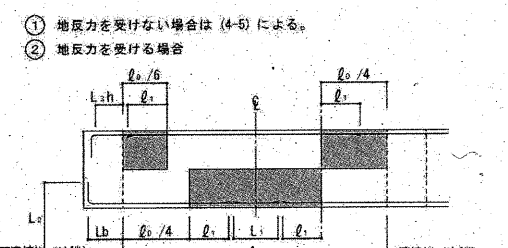
4-6 基礎梁及び基礎小梁

地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-5項および設計図に示す。 余長l_eは設計図に記載があれば、設計図を優先する。



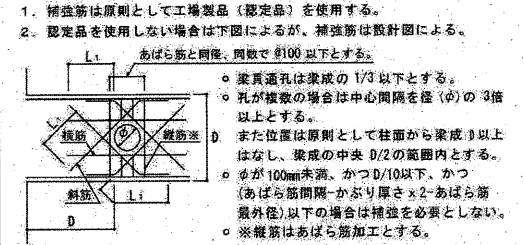
上載荷重が大きい場合は②の主筋継手位置を上下逆にする。

b) 基礎小梁の継手及び定着

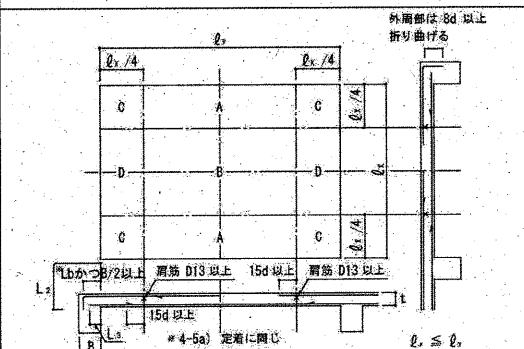


印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面(基礎小梁の場合は梁面)より500以上はなすこと。l_bとれない場合は4-5a定着によつてよい。

4-7 梁の貫通補強



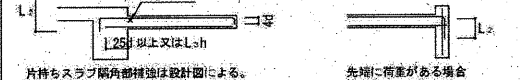
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



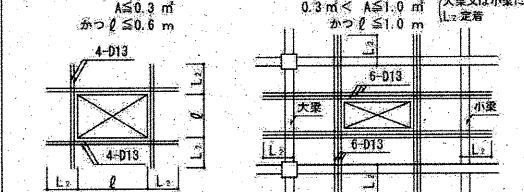
5-2 継手

上端筋	短辺方向	B D
下端筋	長辺方向	A B
	短辺・長辺方向	A C D

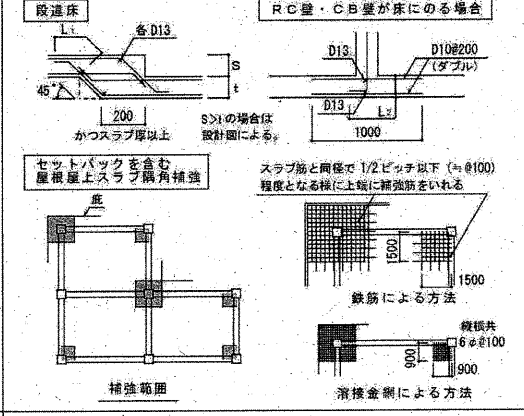
5-3 片持スラブ



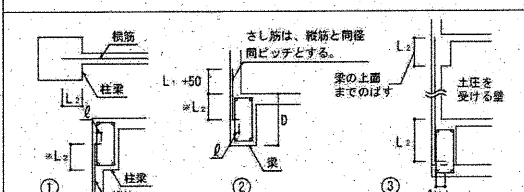
5-4 補強筋



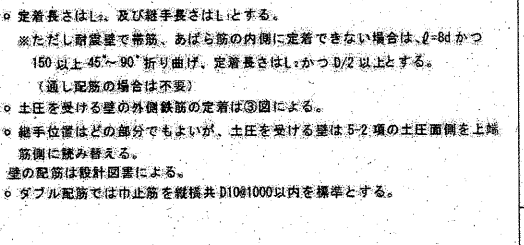
6-1 定着及び継手



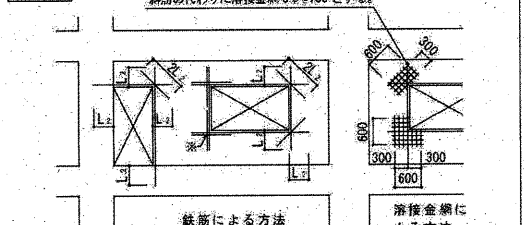
5-5 スラブ



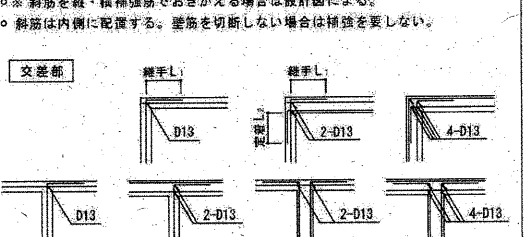
6-2 壁配筋



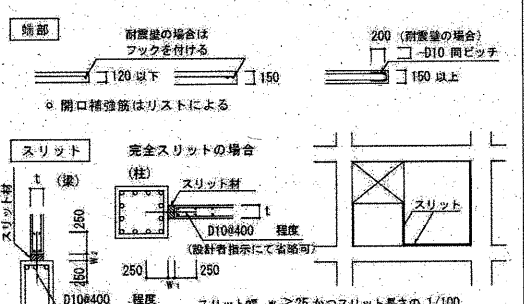
6-3 補強筋



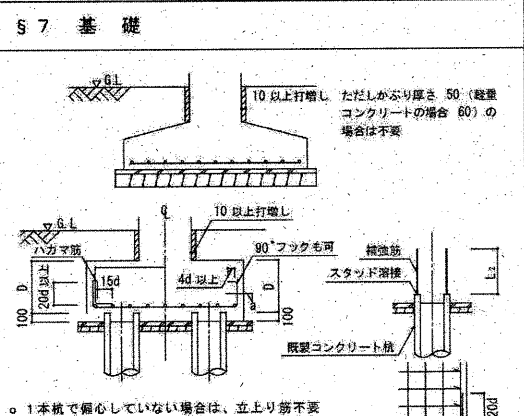
7-1 独立基礎



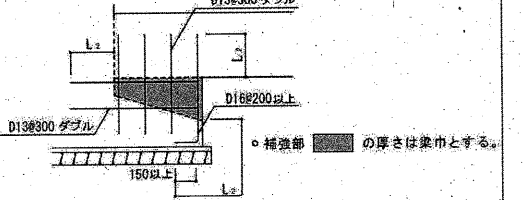
7-2 杭基礎



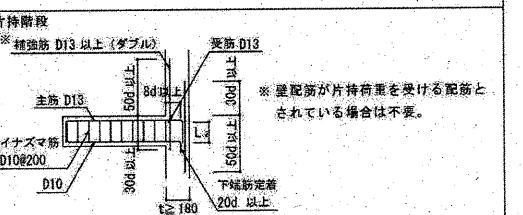
7-3 べた基礎継手及び定着



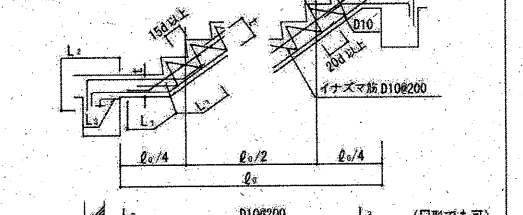
7-4 基礎と基礎梁



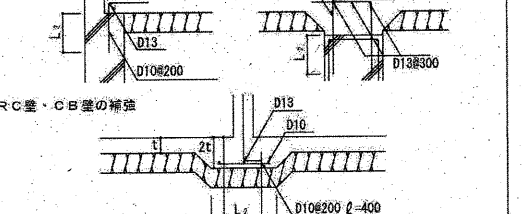
8-1 階段



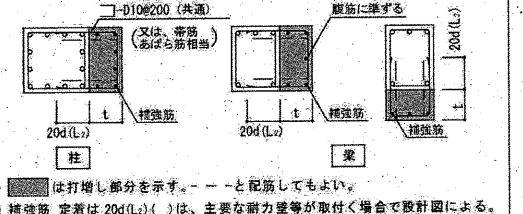
8-2 土間コンクリート



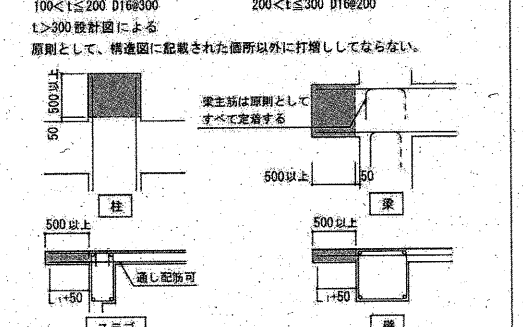
8-3 打増し補強



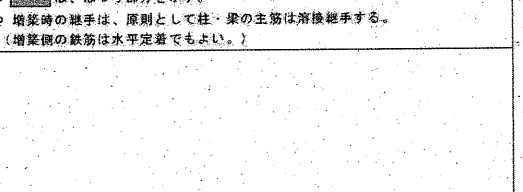
8-4 増築予定



5-6 壁



5-7 基礎



補強筋 定着は 20d(L_e) () は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。
 t ≤ 50 補強なし
 50 < t ≤ 100 D13#300
 100 < t ≤ 200 D16#300
 t > 200 設計図による
 原則として、構造図に記載された箇所以外に打増ししてならない。

は、はつり部分を示す。
 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手とする。
 (増築側の鉄筋は水平定着でもよい。)

鉄骨工作標準図 (1)

§1 一般事項

1-1 基本事項

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図面に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書 1-2-4、5 に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS-6 の付則 6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

2-1 略号

○AB	アンカーボルト	○BH	組立てH形鋼
○BPL	ベースプレート	○OHPL	チェックプレート
○DFPL	ダイヤフラム	○FB	フラットバー
○FPL	フランジプレート	○GPL	ガセットプレート
○HTB	高力ボルト	○RPL	リブプレート
○SPL	スプライスプレート	○TB	ターンバックル
○WPL	ウェブプレート	○W _接	溶接記号 (§4 参照)

§3 ボルト接合

3-1 高力ボルト

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	F8T, F10T	S10T
M16	30	25	
M20	35	30	
M22	40	35	
M24	45	40	

1) 特記以外はすべてS10T (トルシア形高力ボルト、上図) 又はF10Tとする。

2) 本標準図に使用するボルトと、仮締めボルトの表用はしてはならない。

3) ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グライシダー掛け等を行い、黒皮を除去して漆に赤さびを自然発生させる。ただし、シヨットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは1次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。

4) 垂鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

3-2 高力ボルトのピッチ

呼び径	M16				M20				M22				M24			
	孔	標準	最小	P	孔	標準	最小	P	孔	標準	最小	P	孔	標準	最小	P
はしあき	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小締結距離	28	34	38	44	28	34	38	44	28	34	38	44	28	34	38	44
	22	28	28	32	22	28	28	32	22	28	28	32	22	28	28	32

① 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

3-3 形鋼のゲージ

A or B	g ₁	g ₂	最大軸径 B		
			B	g ₁	g ₂
**50	30		16	**100	60
60	35		16	125	75
65	35		20	150	90
70	40		20	175	105
75	40		22	200	120
80	45		22	250	150
90	50		24	*300	150
100	55		24	350	140
125	50	35	24	400	140
130	50	40	24		
150	55	55	24		
175	60	70	24		
200	60	90	24		

* B=300 は手島打ちとする。

**印の g₁ 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小締結距離の規定にかかわらず用いることができる。

4-1 隅肉溶接

§4 溶接接合

16 ≤ t ≤ 40

脚長 (S) 0 ≤ ΔS ≤ 0.6S かつ ΔS ≤ 5
 ΔS = S' - S
 S = 設計サイズ
 S' = 実際サイズ
 余盛 0 ≤ Δa ≤ 0.4S かつ Δa ≤ 5

t	6以下	9	12	14	16	19	22	25	28	32	36	40
s	t	7	9	10	12	11	13	15	17	19	21	24

断続隅肉溶接の長さL

L ≥ 10S かつ 40 以上

4-2 完全溶込み溶接 (突合せ溶接)

1) 板厚の異なる場合 (通しダイヤフラムは除く)

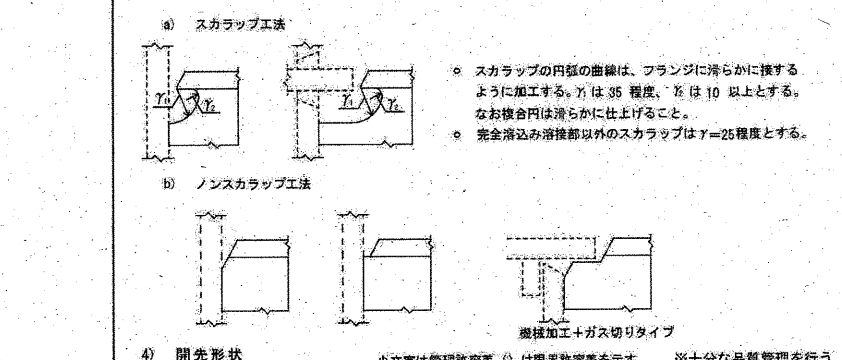
2) エンドタブ

3) 開先加工 (下図は参考とする。)

a) スカラップ工法

b) ノンスカラップ工法

4) 開先形状



小文字は管理符号 () は限界許容差を示す ※十分な品質管理を行う

記号	形状	適用板厚	寸法	注
W ₁		6~	G 9	アーク手溶接
MC-BL-1B		6~	R 2	
GC-BL-1B		6~	G 0	
W ₂		6~	R 2	
MC-BL-2		6~	R 2	
GC-BL-2		6~	R 2	
W ₃		16~	G 0	
MC-BK-2		16~	R 2	
GC-BK-2		16~	R 2	
W ₄		3~5	G T	
MC-B1-1B		3~5	G T	
GC-B1-1B		3~5	G T	

MC ... はアーク手溶接 GC ... はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

片面溶接 W₅

両面溶接 W₆

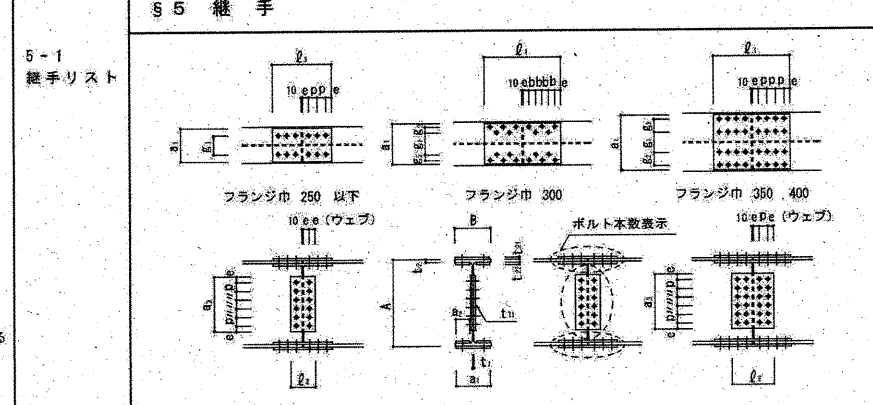
t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

t/4 ≤ S ≤ 10

4-4 フレア溶接

4-5 その他

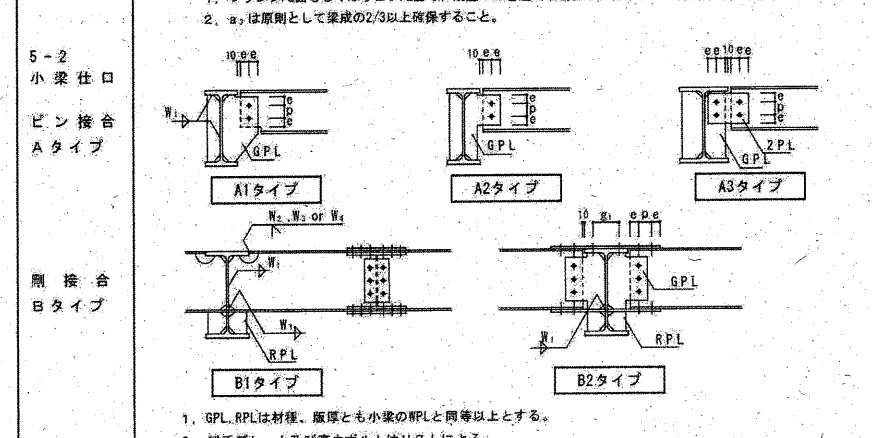
加工中及び現場施工においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。



材種	主材	高力ボルト	フランジ		ウェブ	
			ボルト	外側部板	ボルト	部板
H	A × B × t ₁ × t ₂	○	○	○	○	○
BH	A × B × t ₁ × t ₂	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○
H	× × × ×	○	○	○	○	○

1. フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差1部を超える場合は、ファイラーPLを入れて調整すること。

2. a₁は原則として梁成の2/3以上確保すること。



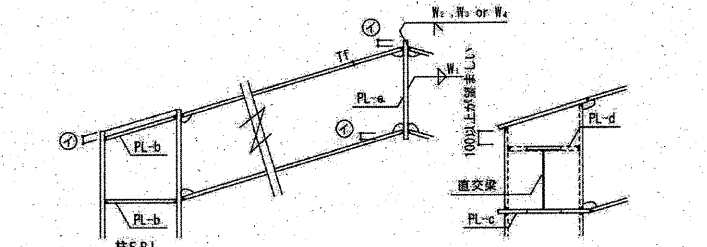
1. GPL, RPLは材質、版厚とも小梁のWPLと同等以上とする。

2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

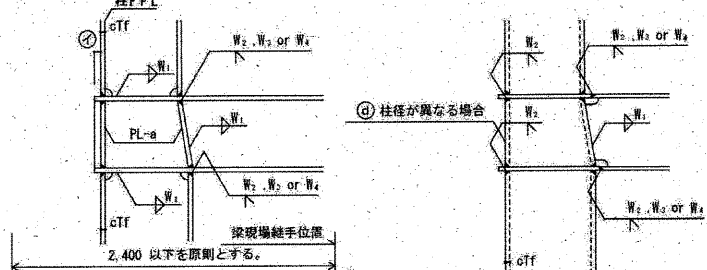
鉄骨工作標準図 (2)

§ 6 柱梁接合部及び継手

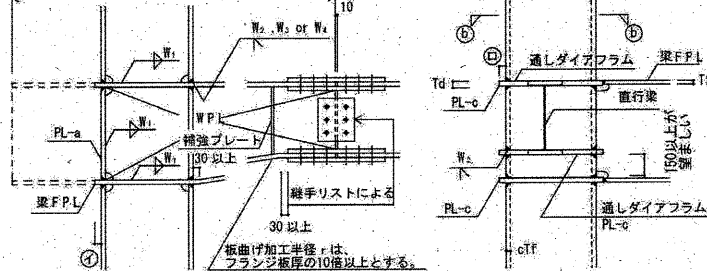
6-1 勾配屋根



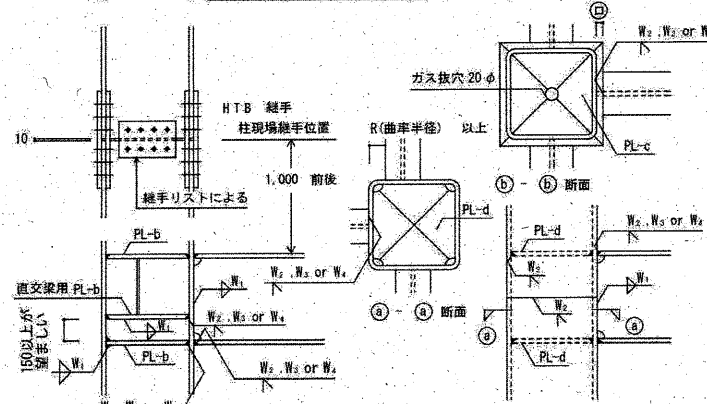
6-2 梁通し



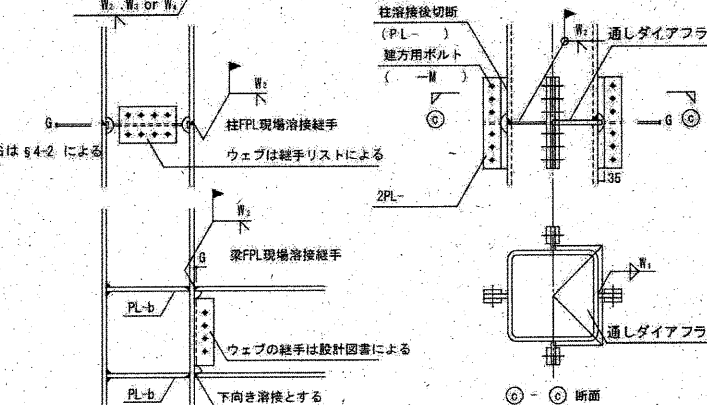
6-3 仕口と継手



6-4 柱通し



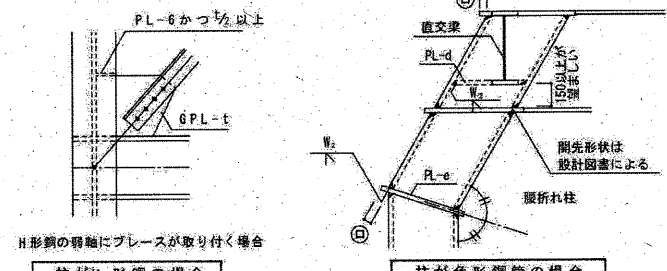
6-5 現場溶接継手



柱がH形鋼の場合

柱が角形鋼管の場合

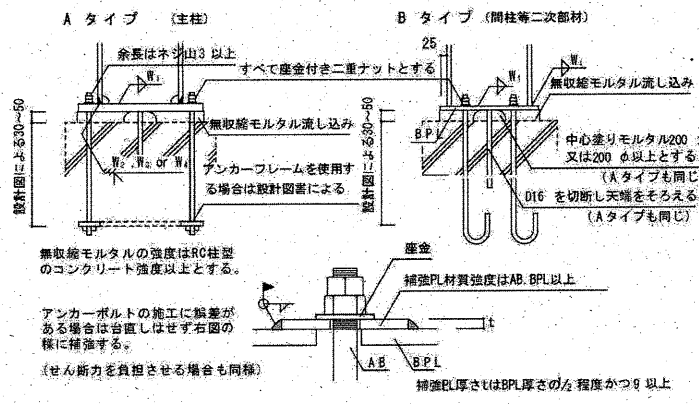
6-6 その他



- 1) パネルゾーン内のFPLの厚さ
1. PL-a (鉛直ステフナ) 上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
 2. PL-b (水平ステフナ) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
 3. PL-c (通しダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
 4. PL-d (内ダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1~2サイズUP以上
 5. PL-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFPLより1サイズUP以上
- 2) 出寸法
- ① 25mm かつcTf以上
 - ② cTf ≤ 25の場合 25
 - ③ cTf ≥ 28の場合 30
- 3) 注記
1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁のランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方のランク上質とする。
 2. ①(6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折曲げ加工又は溶接加工とする。
 3. ハンチ部でFPLを折曲げる場合はR ≥ 10Tとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承認を得、養生に十分配慮して行うこと。

§ 7 柱脚

7-1 一般柱脚



§ 8 壁面ブレース

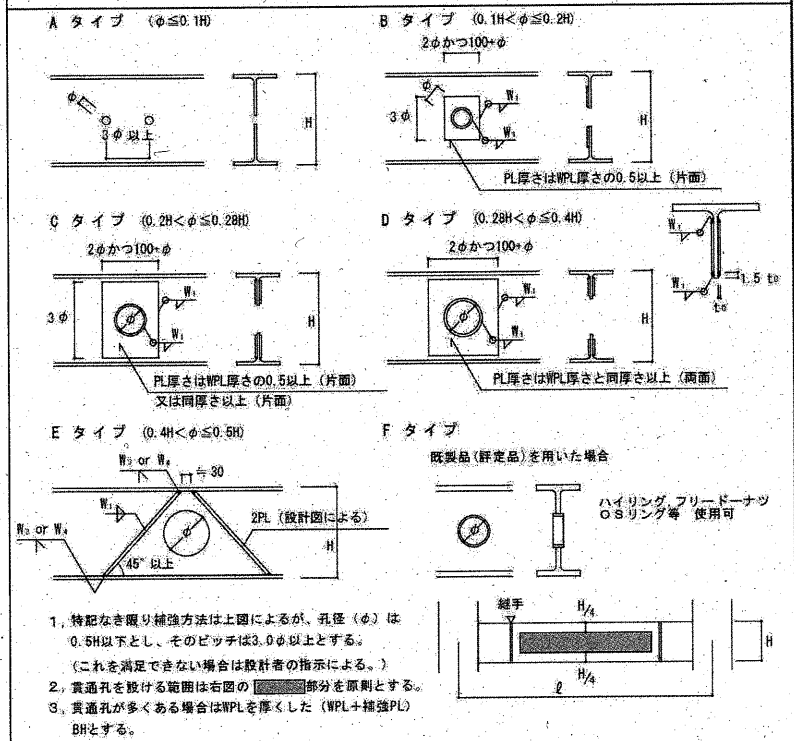
8-1 ブレースリスト

符号	部材	高力ボルト		GFL	溶接
		径	本数		
				t	縦長 Z
				ℓ _e	Zℓ

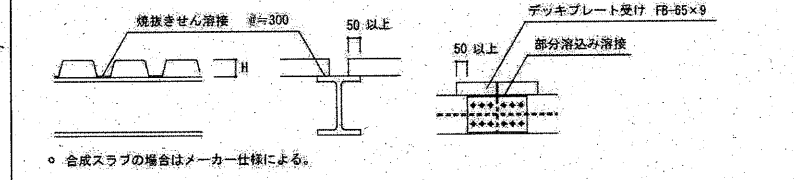
1. GFLの最小値ℓ_eが確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共にJIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は床面に準ずる。

§ 9 その他

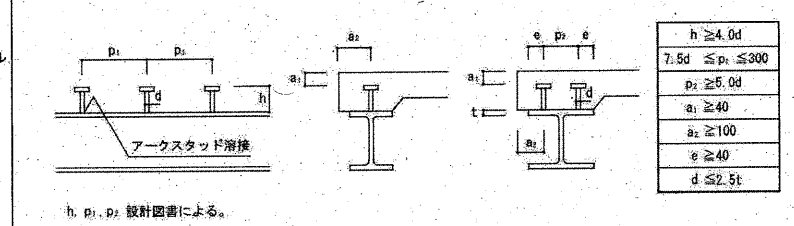
9-1 貫通補強



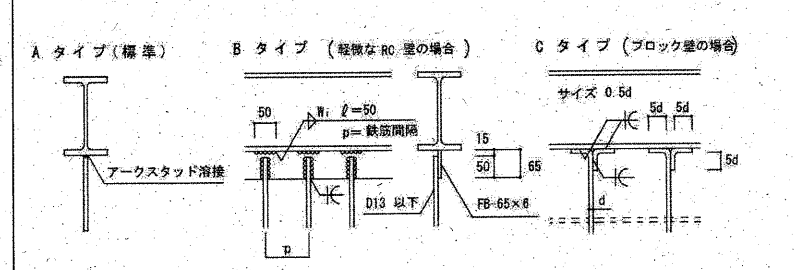
9-2 デッキプレート



9-3 スタッドジベル



9-4 壁筋の溶接



合成スラブの設計・施工は(社)日本鉄鋼連盟編「デッキプレート床構造設計・施工標準-2004」(社)日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」、(社)日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説のうち」ASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事、合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構造 合成スラブの設計・施工マニュアル」、日鐵住金建材デッキプレートカタログ及び設計・施工便覧による。

1. 設計

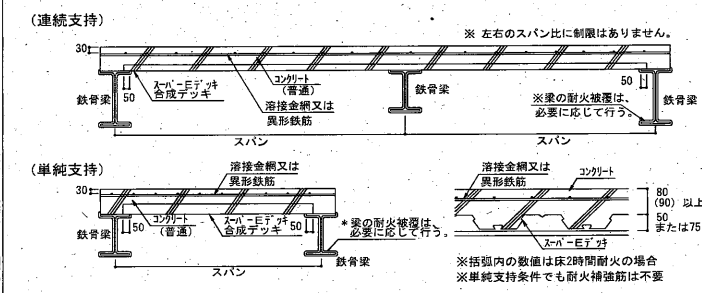
Table with columns for Deck Plate (デッキプレート), Concrete (コンクリート), and Decking Mesh (溶接金網または異形鉄筋). Includes specifications for thickness, strength, and materials.

2. 耐火設計 (耐火補強筋不要仕様)

Table for fire design specifications. Columns include fire zone (耐火区分), product name (品名), and fire resistance conditions (認定条件).

Notes regarding fire design, including requirements for reinforcement and testing conditions.

Table showing fire resistance test results for various deck plate and concrete combinations.

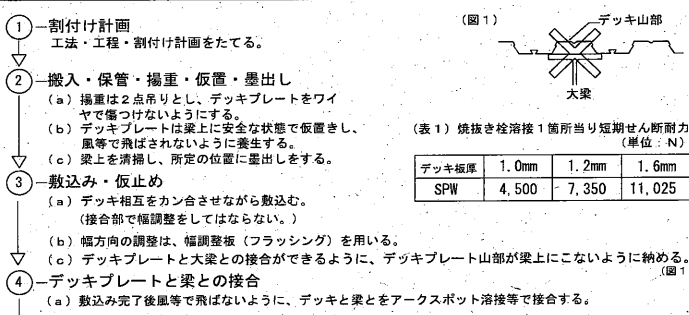


3. 施工時許容スパン

Table showing allowable spans (スパン) for different concrete thicknesses (70mm, 80mm, 90mm, 100mm) and deck plate types (EZ50, EZ75).

Notes regarding span calculations and construction requirements.

4. 施工



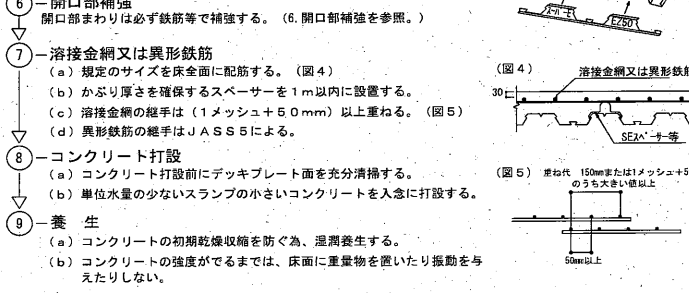
Notes regarding construction steps, such as cutting and reinforcement.

Table for deck plate span direction (デッキプレートスパン方向) and joint pitch (溶接ピッチ).

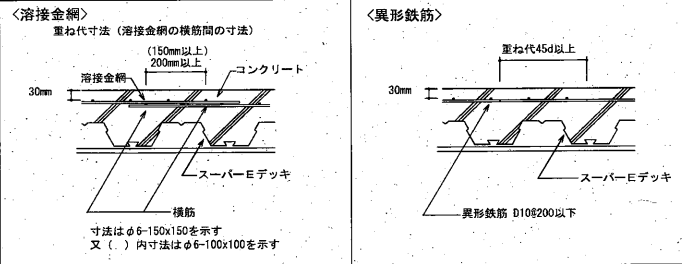
Notes regarding joint pitch and reinforcement details.

Table for deck plate span direction (デッキプレートスパン方向) and joint pitch (溶接ピッチ).

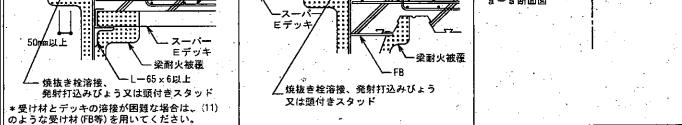
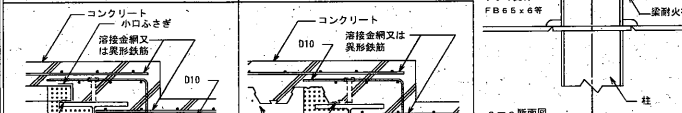
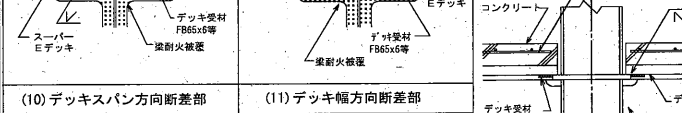
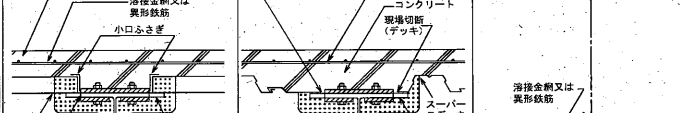
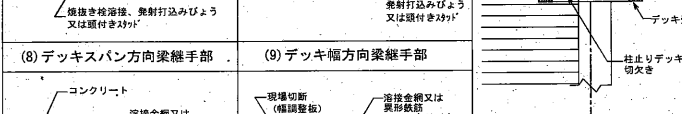
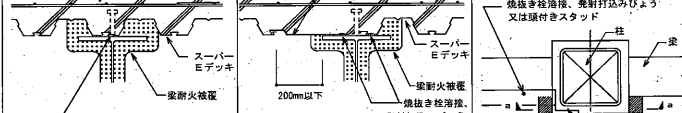
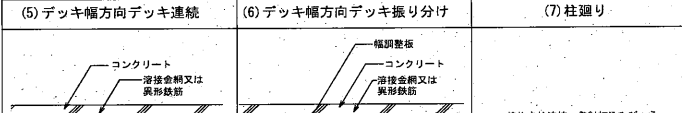
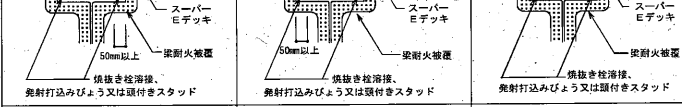
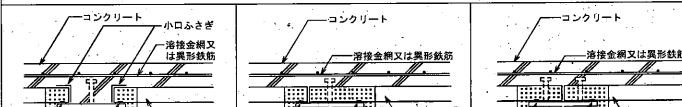
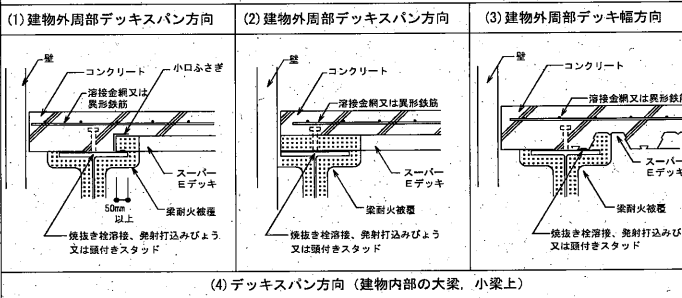
Notes regarding joint pitch and reinforcement details.



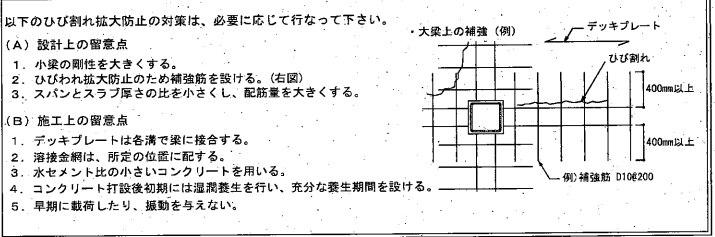
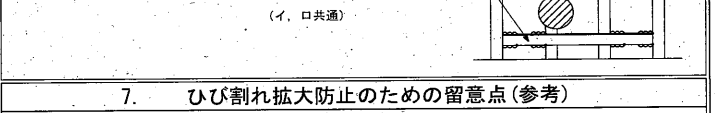
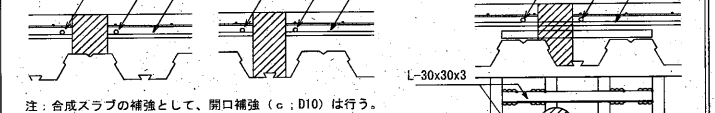
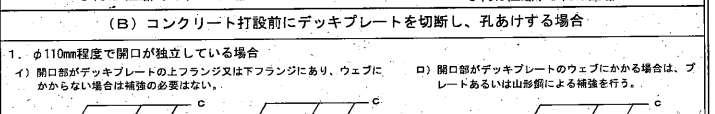
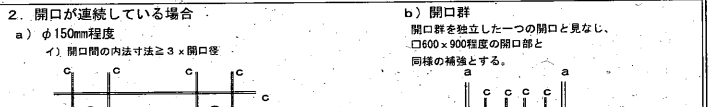
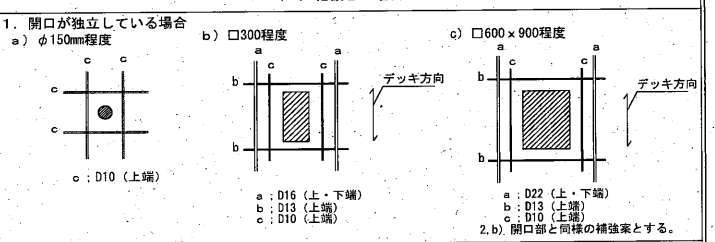
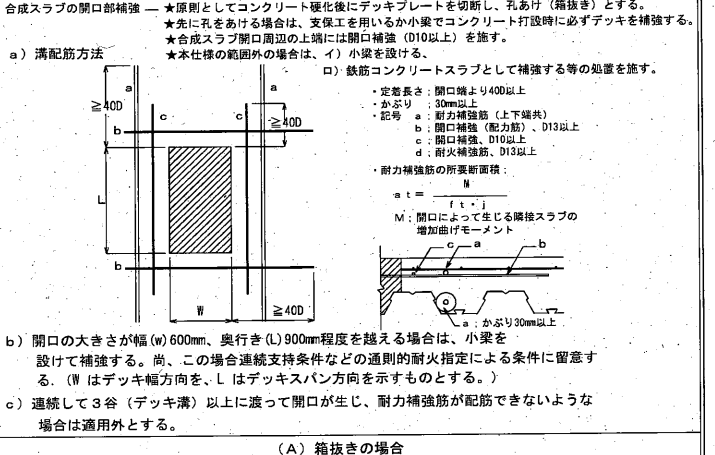
5-1. 溶接金網又は異形鉄筋の納り(共通)



5-2. 標準納まり:S造(鉄骨造)の場合



6. 開口部補強(例)



7. ひび割れ拡大防止のための留意点(参考)

Notes regarding crack prevention measures, including design and construction considerations.